

『かもめ食堂』 公開記念

荻上直子監督インタビュー

三月十一日からシネスイッチ銀座他にて公開されている『かもめ食堂』をご覧になられたでしょうか？ フィンランドのヘルシンキにオープンしたかもめ食堂を舞台に三人の日本人女性とヘルシンキの街の人々が織りなす日常を、ちょっとファンタジックな色合いで目にも心にもおいしく描いた作品です。

公開に先立ち荻上直子監督の合同インタビューが行われ、『かもめ食堂』の制作にまつわるお話や、監督の映画に対する情熱を感じられるお話を聞くことができました。本作が三作目の監督はまだ若く、ポジティブでアグレッシブな気持ちと女性らしい可愛らしさをバランスよく持っている人でした。



1972年千葉県出身 デビュー作『パーバー吉野』(03)がベルリン国際映画祭児童映画部門特別賞を受賞。2作目『恋は五・七・五!』(04)も全国公開された。

◆『かもめ食堂』を撮った経緯

この作品を撮ることになった経緯は？

プロデューサーが「フィンランドで三人の女性が食堂を開く話」という企画を立ち上げ、キャストイングも最初に決まっていた。群ようこさんに原作の執筆をお願いしました。わたしはその原作から脚本を書きました。『パーバー吉野』を撮った後に、もたれまきさんと「次はどこか外国で撮りたいね」と話していたんです。そして昔、家にフィンランド人の学生がホームステイしていたことがあって、知らない国ではなかったので驚きも無く、お話があったときにやりたいと即答したんです。

◆今までの作品は監督が通過して来た世代の話でしたが、今回はこれからの世代の話ですね。この点はどう感じましたか？

経験していないので、とても難しかったです。プロデューサーには「十歳背伸びして作りなさい」と言われ、随分と背伸びしたつもりですが、演ずるベテランの女優さんたちの方がずっと上手で、助けていただくことが多かったです。

◆キャストイングについて

監督の作品には必ずもたれまきさんが出演していますが、彼女に惹かれる理由と、小林聡美さんと片桐はいりさんの魅力について教えてください。

とても出来ないなと思いました。ですから脚本を書く段階で、わたし自身が消化して納得するために、ふらっと一人でプールに行かせたり、「カッコイイ男性に会いたくて：」なんてちょっと冗談を言わせてみたりしてみました。それにしても強い女性だと、小林さんとも話をしたのですが、小林さんは、「サチエは、みんながこんな女性がいたらいいなと思う人なんだと思った」と仰っていて、わたしも同意見です。最初、わたしは主人公のことが分からなかったんです。それは年上だということもあるし、とても強い女性であるということもあつたのですが、群さんに電話して「この人はいつたいたい何が目的なんですか？」と聞いたんです。でも群さんは「目的とかさう言う問題じゃなく、この人たちは切り捨てて来てしまった人たちのよ」と仰って、わたしはそこでようやく得心したんです。切り捨てて来たからこそ、人に優しくもできるし、真面目に正直に日々の生活を送れるんだと。

◆原作から脚本を書く上での脚色
主人公のサチエが現代女性の理想像のように描かれていると思ったのですが、監督はどんな点に注意して演出しましたか？
原作ではもつととても強い女性だったんです。わたしだったら、一ヶ月も誰もお客が来なくてただ一人お皿を磨き続けるなんて、

◆原作から脚本を書く上での脚色
主人公のサチエが現代女性の理想像のように描かれていると思ったのですが、監督はどんな点に注意して演出しましたか？
原作ではもつととても強い女性だったんです。わたしだったら、一ヶ月も誰もお客が来なくてただ一人お皿を磨き続けるなんて、

もたれまきさんは普段はあまり喋らない、とても大人しい方ですが、たまに喋ることが核心を突いていたり、ちょっと毒もあつたりしてとっても可笑しいんです。本当に不思議なおいらがあつて、わたしはそれが大好きです。

小林さんは、今回全編を通して何をやっても本当に綺麗で、お料理もきつと普段からなさっているのでしょうけど、姿が凛として美しく、わたしが想像していた何十倍も素敵なものになりました。子供の頃から憧れていた方だったので、一緒にお仕事できて本当に嬉しかったです。天才なかなと思わせられる人でした。片桐さんは、とても個性的で強烈なキャラクターを演じることが多い方ですよ。でも今回は普通の女性でいて欲しかった。この役では、今までの舞台や映画では観たことの無いとてもチャーミングな片桐さんを見せて下さって、年上なのに失礼ですがとっても可愛らしく見えました。

◆『過去の男』のマルック・ペルトラさんも出演していますが、彼のキャストイングも決まっていた？

フィンランド人の出演者はみんなオーディションで選びました。彼もオーディションです。何十人もの後に出て来てくださって、やっぱり一番味があつて、渋くて格好良かったのでお願いしました。
年金暮らしのおばさんたちも出演しているそうですね。

三人のおばちゃんたちもオーディション

◆そういう面白いシーンを考えるヒントはどこから？
ヒントと言うか、体感的に自分がこの人だつたらと考えるんです。例えば、ずつとかもめ食堂の中にいて、退屈しないはずがないと思うとプールに行かせたりとか、もたれまきさんのキャラクターならこの時点ですぐに買物に行きたいだろうとか、すぐに森に走って行きたいだろうとか、そういう考え方で次のシーンへとつないでいきます。

◆四人目の主役は食べ物

◆シナモンロールなど食べ物も印象的ですが、そのあたりのこだわりはありましたか？
もちろんあります。この映画は食堂の話で、食べ物で四人目の主役なので、絶対においしいものに撮りたかつたし、おいしそうに食べている人を撮らなくちゃいけないと思つて、優秀なフードコーディネーターをスタッフに入れて、彼女に映画の中に出てくる食事は作ってもらいました。実際食べてもおいしくて、フィンランド人のスタッフもパクパク食べていました。

◆ザリガニのおにぎりは食べましたか？

わたしはチャンスが無くて食べていません。意外とザリガニ二つって高いんです。他にもトナカイの肉などを使って試作するシーンがありますが、小林さん曰く、実は結構おいしかったです。